第２回いわき市地域包括ケア推進会議
協議事項

日時：令和２年３月18日（水）18:30～
場所：いわき市総合保健福祉センター
　　　多目的ホール

前回（R元第１回）の主な発言要旨 ①

①　入居・入所・葬送等支援事業

　事業の進捗状況について、随時報告していきたい。

②　ハイリスク

　母親と同居している40代の未婚の男性などは、将来的に独居の男性高齢者になっていくと考えられ、要介護状態やハイリスク状態に陥る可能性が高い。このようなターゲットの取組みは重要であり、スクリーニングから分かってくることがあれば報告いただきたい。

③　介護予防ケアマネジメント

・ 通所型短期集中予防サービスについて、どうして参加する事業者が増えていかないのか。次の展開につなげていただきたい。

・ 支援会議におけるアドバイスについては、個別ケースずつではなく、事業所単位で実施した方が効率が良いのではないか。

・ 事業をどのように展開したのではなく、それによって高齢者の暮らしがどのように変わってきたのかを見ていただきたい。

前回（R元第１回）の主な発言要旨 ②

④　つどいの場＆住民支え合い

高齢化が進むとつどいの場を運営する力が衰えてくることが考えられるので、住民支え合い活動と連携しながら、つどいの場の増加を図っていきたい。

⑤　見守りあんしんネット

住民支え合い活動の担い手といったところでは、見守りあんしんネットワークのような既存のネットワークと連携していくのが良いのではないか。

⑥　地域ケア会議

中地域の中でどのような事が課題として挙げられ、解決できた課題とできなかった課題について、その情報を集約して、それぞれの地域課題の解決に取り組んでいく場がこの会議ではないか。

⑦　地域医療

地域医療構想調整会議の中でどのような話がされているのかを把握する機会があれば良い。

被害状況

- 昨年の10月12日から13日にかけて本市を直撃した台風第19号により、三和地区では2日間の総雨量が448mmを超えるなど、記録的な大雨
- 10月25日にも、低気圧の影響による大雨に見舞われ、土砂崩れや浸水など多くの被害

（写真：平窪地域の被害の様子）

- 最大で57カ所の避難所に6,968人の方が避難する中、河川の決壊などにより多くの尊い命が失われた。

人的被害（1/6時点）

死者	9人（溺死8名、外傷1名）

住家被害（1/6時点）

全壊	121 棟
大規模半壊	841 棟
半壊	3,170 棟
一部損壊	1,445 棟

災害対策本部資料より（R2.1/6現在）

医療・福祉施設の被害

種別	被害施設数	休止中
医療機関等	11 件	4 件
高齢者関係施設等	27 件	2 件
障がい児者関係施設等	20 件	0 件
児童福祉施設	16 件	0 件

（R2.1/15時点）

再開はしているものの、事業縮小や他事業所の
スペースを一部借用して運営している施設等もある状況

避難所の運営状況

	避難所数	世帯数	人数
10月13日	57	3,018	6,968
10月14日	9	137	312
10月31日	7	191	416
11月15日	6	152	322
11月30日	6	120	252
12月15日	4	76	156
12月31日	1（内郷コミュニティセンター）	32	70
1月25日	閉鎖	―	―

災害医療支援チーム（専門職）の活動

専門職団体	活動内容
JMAT（日本医師会災害医療チーム） 福島県看護協会（いわき支部） いわき市薬剤師会	避難所巡回訪問診療 インフルエンザワクチン接種
JMATいわき	災害対応に係る医療チーム会議
日本赤十字社災害医療対応チーム	臨時救護所設置
福島県歯科医師会（市歯科医師会）	避難所巡回訪問診療
JRAT（日本リハビリ協会）	避難所巡回訪問
DPAT（災害時精神保健チーム）	避難所でのこころのケアサロン開催
保健師避難所巡回チーム	避難所巡回訪問

ボランティア活動

月	活動者数（人）	活動箇所数（ケ所）
10	1,582	300
11	5,520	940
12	2,791	367
累計	9,893	1,607

※１月以降は土日に限定して、ボランティア活動を継続して実施している。

写真：市災害ボランティアセンター（社会福祉協議会）より
ボランティア活動事前説明（左）と
実際のボランティア活動（右）

高齢者等把握事業

【目的】

発生した台風19号における被災生活により、状態の悪化が懸念される在宅被災者に対して、個別訪問等による早期の状態把握、必要な支援の提供へのつなぎ等を行う。

【事業内容】

・避難行動要支援者名簿等に基づく被災した在宅高齢者等への個別訪問による現状把握の実施

・必要に応じた関係支援機関へのつなぎの実施

・個別訪問に基づく専門的な生活支援等の助言の実施

【対象】

高　齢　者	約380人・・・	避難行動要支援者名簿登録者のうち、主に浸水被害を受け、介護保険等が未利用であり、包括・ケアマネの支援を受けていない者
障がい児者	約250人・・・	浸水被害を受けた障がい児者

避難所シルリハ体操

避難所で生活している方の生活不活発病を予防するために、
週３回15分程度、JRATチームも同行訪問体操を実施。

● 内郷コミュニティセンター

【期間】
Ｒ1.10/30～12/27

【実績】
延べ71名（男36名、女35名）

● 中央台公民館

【期間】
Ｒ1.11/15～12/27

【実績】
延べ50名（男19名、女31名）

写真：内郷コミュニティセンター

みんなでいくべ家

台風19号の影響でつどいの場が開催
できていない地区で、週2回の体操教室を開催

【期　間】
令和元年12月２日から
【場　所】
ひらくぼ家（いわき福音協会）
　延８４名（男９名、女75名）
よしま家（総合保健福祉センター）
　延139名（男９名、女130名）

写真：よしま家（総合保険福祉センター）

住民支え合い活動

活動紹介　支え合いサポーターによる災害復旧作業

昨年10月の台風第19号及び台風第21号の豪雨により、支え合い活動を実施する地区においても多くの被害が発生しましたが、いち早く支え合いサポーターが協力し合い、心配な方への声かけと避難誘導、その他生活に必要な復旧作業を行いました。

小川地区：網戸の解体作業

遠野地区：橋の復旧作業

各地区でさまざまな取り組みを行っています。詳しくは、地域福祉課　☎23-3320（代）まで

【いわき市社協だより　第133号より】

入居･入所･葬送等支援事業（相談件数等）

項目			契約	対応中	相談のみ	合計
身元保証	入居	市営住宅	4	1	1	6
		県営住宅	2	0	0	2
		グループホーム	4	0	0	4
		有料老人ホーム	9	6	2	17
		ケアハウス	2	1	0	3
		高齢者専用住宅	0	1	0	1
		アパート	7	2	3	12
		計	28	11	6	45
	入所	特別養護老人ホーム	1	7	0	8
		老人保健施設	5	1	0	6
		その他	1	1	4	6
		計	7	9	4	20
葬送等（生前葬儀契約等）支援			0	14	3	17
その他（入院、金銭管理等）			0	4	5	9
合計			35	38	18	91

【R1.12末時点】

入居・入所・葬送等支援事業（会費等）

● 会費

【R.1.12末時点】

種別	会員数	会費（1口1万円以上）
社会福祉法人（事業所）	11	11万円
NPO法人	2	2万円
一般社団法人	1	1万円
民間企業	7	10万円
寺院	1	1万円
合計	22	29万円

● 寄付　51,000円

合計　341,000円

着々と広がりは見せつつあるものの、今後は
安定的な運営のためには資金不足が否めない状況

通所型短期集中予防サービスの見直し

通所型短期集中予防サービスへの参加事業者促進のため、次の2点について事業の見直しを実施

① 人員配置基準の緩和

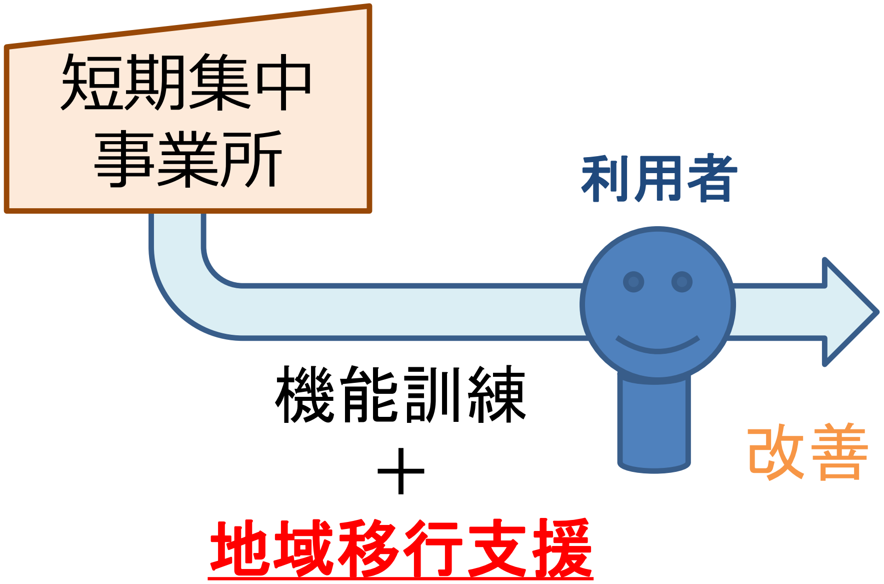
② 地域活動移行インセンティブの導入

※ 令和2年1月から運用

① 人員配置基準の緩和

人員	令和元年12月まで	令和2年1月から
管理者	専従１以上 （常勤要件なし）	変更なし
支援相談員	単位毎に1以上 （時間帯通じての配置不要）	変更なし
介護職員	（配置なし）	
看護職員	看護師又は准看護師 （単位毎に1以上）	配置なし
生活機能指導員	単位毎に提供時間帯を 通じて専従１以上	変更なし

②　インセンティブの導入



つどいの場
のほか、就労、ボランティア、趣味サークル、スポーツジム等

自主的な介護予防活動

地域へ移行した終了者1人につき
35，000円を市が事業所へ支給

※ 令和2年1月から対象

短期集中予防サービス支援の実際

再び お店（酒屋）を切り盛りするために…

ビール中ジョッキをお客に出すための訓練

カウンターで横歩きしお酒を出す訓練

単なる機能訓練ではなく、本人のその後の人生や、「やりたいこと」をかなえる訓練を実施

つどいの場

	H29.3	H30.3	H31.3 (a)	R1.12 (b)	差 (b)－(a)
つどいの場	355ヶ所	413ヶ所	442ヶ所	443ヶ所	1ヶ所
参加実人数	7,831人	9,033人	9,319人	9,370人	51人

事業活用団体　H30：272団体
R１：276団体
専門職派遣　H30：178件
R１：218件

高齢者人口 97,257人（R1.9月末）
に対し 9.63%

国目標：2020年度末までに参加率 6％
（社会保障・働き方改革本部「健康寿命延伸プラン」）

引き続き「開催頻度の増」「生活支援の拡大」に向けて支援

多世代型つどいの場

【玉川ふれあいの会】玉川幼稚園にて

つどいの場創出支援補助金の主な要件

- 65歳以上の高齢者が参加者数の過半数を構成
- 構成員は5名以上
- 地域住民の誰でも参加可能

誰でもウエルカム
それが「つどいの場」

⇒地域共生

支え合い活動団体（第3層協議体）

	H31.3	R1.5	R1.12
登録地区数	22地区	29地区	**36地区**
サポーター数	410人	445人	**472人**

新規地区　勿来関田地区、常磐上川地区、内郷高野地区、好間北２区、好間椎木平区、久之浜中町区、久之浜東町区

予定地区　小川高萩地区、江田・牛小川地区

台風をきっかけに検討が加速

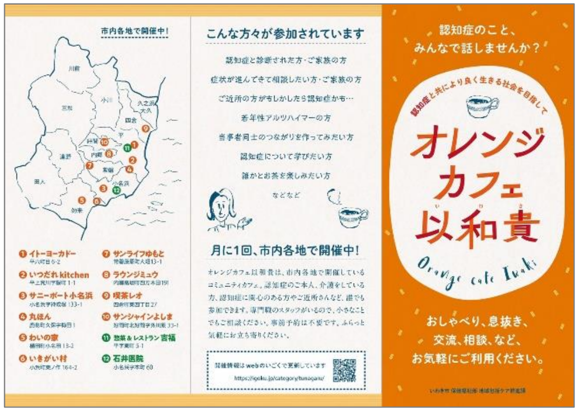
第三層協議体として「つどいの場」の運営を行っている地区：25地区

認知症カフェ事業「オレンジカフェ以和貴」

2019年11月～　市内10か所めのオレンジカフェがオープンしました！

【場　所】いつだれkitchen
【日　程】毎月第3水曜日
11時～14時
【参加費】100円
参加者と一緒に昼食をつくり
楽しく喫食しています

オレンジカフェのリーフレットを作成し、認知度の向上を図っています



病院、薬局、包括などにご協力いただき、市民に広く知っていただけるよう、リーフレットを設置していただきました

認知症関連事業　その他の取り組みについて

1月23日　VR認知症体験会

市民対象に定員100名で開催しました。認知症の正しい理解を広めるため、来年度も継続して実施します。

2月8日　認知症講演会

認知症施策の先進地である**福岡県大牟田市**より講師を招き、大牟田市の徘徊模擬訓練をきっかけとした地域づくりについて紹介。

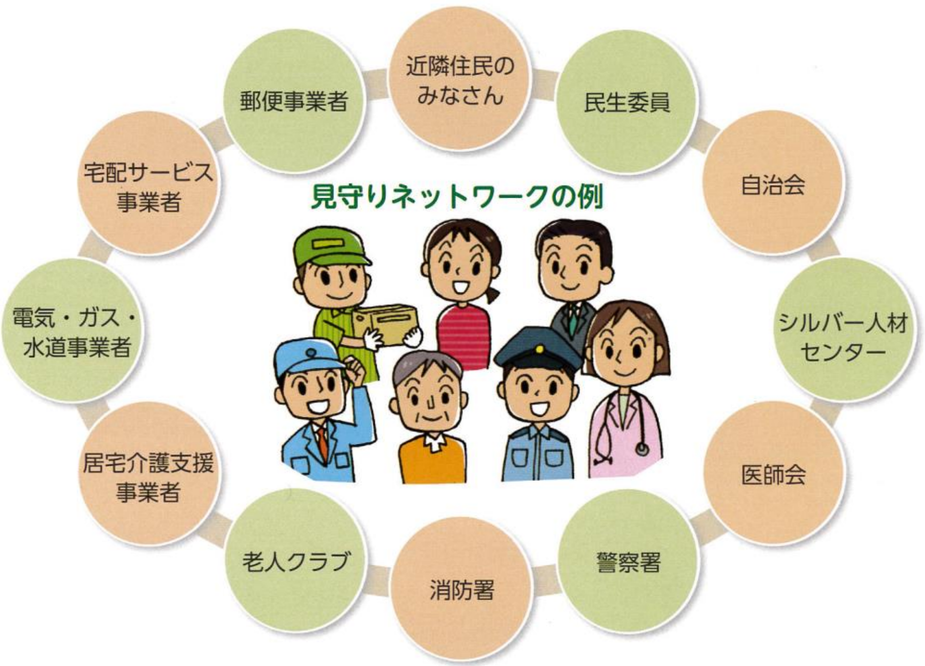
本市でも認知症の人を地域で見守る体制を整えていきます。

見守りあんしんネット連絡会について

●会発足の背景

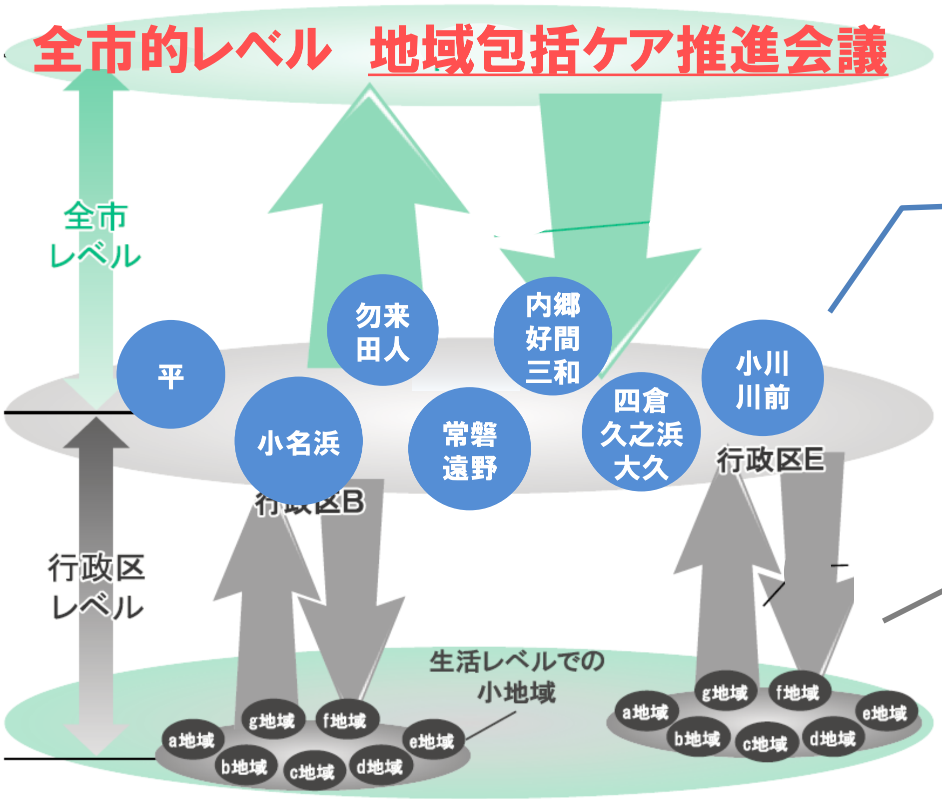
地域や住民同士のつながりが希薄になっている中、高齢者や児童の虐待、認知症高齢者の徘徊などが身近な地域で発生している。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう地域住民だけでなく、日常生活に密接に関わる市内の団体や事業者等が参加・協力し、日常業務の中でのさりげない見守り活動等を行う



※ 登録会員一覧は別紙資料参照。

地域課題抽出に向けた地域ケア会議



全市的な課題として検討

中地域ケア会議
（地区保健福祉センター圏域）

個別・小地域ケア会議から出てくる課題について地域で解決を図る
※地区保健福祉センター対応

個別・小地域ケア会議
（中学校・小学校・徒歩圏域）

個別・小地域ケア会議で解決できない課題を中地域ケア会議へ提出
※地域包括支援センター対応

中地域ケア会議において課題の洗い出し
➡　次年度以降の会議において報告

平地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

・第一回会議　令和元年8月21日（水）
・第二回会議　令和元年9月18日（水）
　会議内容：地域の課題を確認、課題に対する取り組み・方法を検討し、10月17日（木）に「認知症高齢者の自動車運転について」を取り上げてパネルディスカッションの開催を企画した。（台風災害により中止）

②大雨災害対応

・10月12日～　台風19号に伴う避難所を開設し管理・運営業務を実施
　（平地区10か所）　112世帯　250名避難
・10月18日～　大雨に伴う避難所を開設し管理・運営業務を実施
　（平地区5か所）134世帯　255名避難
・10月25日～　大雨に伴う避難所を開設し管理・運営業務を実施
　（平地区4か所）449世帯　1,017名避難
・ 1月25日～　避難所　閉鎖

平地区中地域ケア会議

②大雨災害対応

平地域包括支援センター活動実績
10/13～　被災状況把握開始
・ケース　732件（内、居宅介護支援事業所へ委託分542件）
・要援護者（独居・高齢世帯）　224件
・鯨岡、幕ノ内、中塩地区訪問　98件

10/16～　地域の被災者へ支援開始
・避難行動要援護者調査
　連絡や訪問を行い安否確認、水や生活用品の配布した。
〇平4方部　354名　〇平11方部　134名　〇障害　27名

③今後の予定（今年度）

・第三回会議を開催し小地域ケア会議における様々な取り組みの内容について報告・検討を行うとともに、次年度における会議の開催を協議。

小名浜地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

● 第１回小名浜地区中地域ケア会議（令和元年6月26日実施）

・認知症在宅ケア講演会の実施について（報告）

・小名浜地区における各団体による出前講座（学び舎おなはま-）の実施状況について（報告）

・小名浜地区における地域包括ケアシステム　小名浜多職種連携チーム実働に向けて（議事）

● 第2回小名浜地区中地域ケア会議（令和元年9月11日実施）

・認知症在宅ケア講演会の実施について（報告）

・第１回多職種連携会議について(報告）

・小名浜の地域課題について【各種依存症患者の支援】（議事）

②今後の予定（今年度）

● 第3回小名浜地区中地域ケア会議（令和2年2月26日予定）

勿来・田人地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

・第2回田人地区講演会（令和元年５月）
　→田人地区住民を対象に“食と健康”をテーマに健康講話を実施
・第４回医療・介護・健康フェア（令和元年６月）
　→医療・介護・健康に関する講演会と体験型イベントを組み合わせたフェアを開催
・令和元年度第一回中地域ケア会議（令和元年８月）
　→新しくなった委員と共に、これまでの中地域ケア会議の取り組みのについて振り返りを行う。併せて新たな課題抽出に向けた検討を行う。

【 田人地区講演会 】
講演テーマ：食と栄養について

【 介護フェア講演会 】
講演テーマ：高齢者を狙った犯罪について

勿来・田人地区中地域ケア会議

②大雨災害対応

・勿来地区は、南部アリーナをはじめとした各避難所を開設

・田人地区は、土砂崩れが発生。道路が遮断される被害があり、現在も復旧作業中。

・勿来地区センターとしては、好間地区等の避難所応援や罹災証明の受付等の応援に職員を派遣し、協力を行っている。

③今後の予定（今年度）

・第二回中地域ケア会議の開催を予定（日程未定）
　→前回の中地域ケア会議で実施した抽出された課題の共有と今後、できる取り組みについて協議を行う予定。

常磐・遠野地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

・令和元年度第１回常磐・遠野地域ケア会議（令和元年８月29日開催）
・常磐・遠野いきいき健康塾（平成31年４月25日以降、概ね月１回開催）

②大雨災害対応

・避難所運営業務（他地区避難所への派遣も含む）
・各種支援金及び減免申請受付業務

③今後の予定（今年度）

・令和元年度第2回常磐・遠野地域ケア会議（令和２年２月開催予定）
・作業部会の取組検証（令和２年２月実施予定）

内郷・好間・三和地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

・中地域ケア会議 （第1回：R1/6/27）
・作業部会 （第1回：R1/7/19 、第2回：R1/9/20）
・認知症地域相談窓口の周知（チラシを3,300枚作成し115事業所へ配布）
・内郷・好間・三和地区版認知症ケアパスの作成、配布（5,000枚作製し119事業所へ配布）
・介護塾の開催とメニュー見直し （開催回数：7回　参加者：114名）
・終活講座の開催 （開催回数：2回　参加者： 19名）
・認知症地域相談窓口対応職員研修（開催日：R1/11/13　参加者：20名）

終活講座（下永井地区つどいの場）

地区版認知症ケアパス（表）

地区版認知症ケアパス（裏）

内郷・好間・三和地区中地域ケア会議

②大雨災害対応

・避難所運営業務
・被災者個別支援（生活再建支援）

③今後の予定（今年度）

・第２回中地域ケア会議	令和２年３月
・第３回部会	令和２年２月14日（金）　18時から
・介護塾	令和２年２月に２回　延45名　好間地区
・終活講座	令和２年３月９日（月）　14時から　25名

四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

オレンジカフェ以和貴in大久

・「いわき医療介護学校よつくら塾」の開催 ： ５月～９月、11月
・オレンジカフェ以和貴in大久(海竜の里センター) ： ９月19日
（サテライト開催として、大久地区ではじめての実施）
・認知症声かけ訓練（四倉小4年生）：12月18日

②大雨災害対応

・給水活動への協力（行政嘱託員（区長）協議会・民生児童委員協議会における活動 ）
四倉地区内の給水所での誘導整理や要支援者への
声かけ・協力（小規模介護事業所においては、施設職員が
自宅から水道水を持ち寄り対応したところがあった）
・地区センターと連携のもと、地域包括支援センターから
各ケアマネージャーにサービス利用者の状況確認を実施

③今後の予定（今年度）

・令和2年1月23日　第2回四倉久之浜大久地域ケア会議開催

小川・川前地区中地域ケア会議

①今年度やったこと

・令和元年度第１回小川・川前中地域ケア会議（令和元年10月10日開催）
・小川寺子屋の開校（９回実施、今年度は台風災害により10月で休校）
・認知症カフェ開催に向けた検討会の実施

②大雨災害対応

・台風災害により小川支所及び保健福祉センターも被災したため、業務再開に向けた復旧作業に従事するとともに、被災者の健康相談・福祉ニーズの把握や生活再建のためのサポートを社会福祉協議会・地域包括支援センター等の関係機関や区長・民生委員などの地域住民と協力して対応した。

③今後の予定（今年度）

・台風災害により停止している各取り組みについて、今年度における実施状況等の整理及び再開に向けた準備